

【令和5年度 授業改善推進プラン】

板橋区立北野小学校

【理科】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実験・観察には興味関心を持って取り組んでいる児童が多い。 ・観察実験から科学的な考えに言語化できない児童が多い。 ・生活経験や今まで習った学習と結びつけて予想を立てたり、結果や現象から考察したりする力がまだ十分であるとはいえない。 ・様々な事象と理科的な言葉を結びつけられず、また、理解度に個人差があるため、観察の観点を捉えきれず十分な理解に至らない児童が多い。 ・「実験」「結果」「考察」「まとめ」など、それぞれでどのように書けばいいのか把握していない児童が多い。 ・観察の際に、実物を見て、色や大きさ・形などを正確に捉えたり、比べて違いを捉えたりすることができる児童が少ない。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決型の学習の流れを意識させ、問題や仮説をはっきりと立てさせ、協働してそれらを検討させる指導をする。 ・観察能力を高めたり、科学的に自然を見る力を付けたりさせるために、直接自然に触れ、実感を伴った学習をする機会を増やす必要がある。 ・どのように考察させるのか、どのように書かせるのかといった考察の手立てをする必要がある。 ・体験を伴う活動を取り入れる際には、課題を明確にし、観察・実験のポイントをはっきりさせるように、繰り返し指導することが課題である。 ・生物教材の整備。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題→予想→実験・観察→考察→まとめという流れで、問題解決型の学習指導を行う。児童の主体的な学習となるように、授業作りを行う。 ・生活経験や既習事項を根拠に予想を立て、発表し合う活動を取り入れて、考えを深める指導をする。(協同的な学習) ・観察能力を高めたり、科学的に自然を見る力を付けたりさせるために、直接自然に触れ、実感を伴った学習をする機会を増やすため、時期を考慮して授業を組み立てる。 ・自然の事物や現象の変化について、実験や観察の結果を整理させ、関係を推論できるよう指導していく。 ・どのように考察させるのか、どのように書かせるのかといった考察の手立てを統一させる。 ・ICT機器を活用する。